

島根県支部

松江市中心商店街における商圈需給の調査・研究

今回、松江市中心市街地商店街として南殿町商店街について、当該商圈における需給バランスの分析をとおり、問題点・課題をみてきた。

この結果によると、商圈消費者の高齢化による来街頻度の減少、商圈内消費者の動向に合わせた店舗づくりの遅れ等、消費者特性と商店街のミスマッチが多く見られた。消費者の動向・趣向・特徴を考慮しない（対応できていない）、旧来のままの商店街であり続けた結果が、観光客需要を考慮してもなお、過剰業種が多く見られるという、アンバランスな状況となっていると言えるであろう。

統計の取り方等に、時代遅れのやり方で収集されたデータを基にして算定した数値等、若干の課題はあるにせよ、傾向としては大きな相違点はないものと考えられる。

中心市街地の活性化が、いま再びまちづくりの最重要課題として国・地方をあげて取り上げられている現在、生活者のニーズに対応できる個別の店づくりは当然のことながら、いま一度、今回のような科学的手法を用いたマクロとしての商店街の方向性を検討してみることが、必要ではないかと考えられる。

店舗、業種の適正配置を検討し、あるべき商店街の姿（コンセプト）を導き出すことが、いま、個店の利害得失・エゴを超えた、中心商店街活性化のための最大の課題ではないかと考える。

その上で、“時代環境・消費者ニーズに適応した経営革新”志向に基づく、個店の革新・活性化、業種から業態への変革等への取り組みが有効となると考える。個店の努力が実効あるものとなるためにも、街としてのあり方を整理することが、優先課題となるべきであると考える。

科学的手法に基づいて、検討したまちづくりのあるべき姿から俯瞰した各商店街の目指すべき方向性を整理し、具体的取り組みを旧来の発想にとらわれず、実行に移していくことこそ、活性化を検討するに当たって、行政はもとより、商業者個々に求められる最大の責務であろう。

従来の業種概念では、捉えきれなくなったデータや指標を、アレンジはしながらも、数多く採用しているため、今後は、より実態に近いデータに変更して分析を深めて行くべき点等、分析上の課題は若干残されてはいるものの、本報告書が松江市中心市街地商店街活性化に資し、広く他の商店街にも活用されることを祈念してやまない。